果てるまで　鵲（かささぎ）に問ふ　織姫（おりひめ）の
満天の川　渡り止めたし

令和七年四月七日

大中臣正比呂

年に一度の彦星（ひこぼし）と織姫（おりひめ）の逢瀬（おうせ）には、天の川を鵲（かささぎ）が羽を広げて渡してやるとも、紅葉（もみじ）を水に敷き詰め、橋となして渡すのだと云う伝承もある。

沖縄の波照間（はてるま）の海岸に立てば、逢瀬が年に一度とは切なくなるものだ。